

2010年12月

1. 新聞・テレビ等

(医薬安全科学部)

○ 頭金正博

厚労省 安全対策DBで8項目の柱を提示

日刊薬業, 平成21年12月16日

平成21年12月14日に厚労省で行われた「医薬品の安全対策等における医療関係データベース(DB)の活用方策に関する懇談会」において、国立衛研の頭金正博室長は、病院情報システムを活用した高脂血症治療薬による筋障害の発現状況に関する調査結果を報告し、病院情報システムを安全対策に活用する意義を説明した。

(有機化学部)

○ 菅野 純

”エコナ問題”の教訓

ニッポン消費者新聞, 平成21年12月15日

2. 誌上発表(原著論文)

(生薬部)

○ Kondo, K.^{*1}, Shiba, M.^{*1}, Yotsuyanagi, Y.^{*2}, Nishimura, N.^{*2}, Maruyama, T., Goda, Y.

^{*1}株式会社ツムラ, ^{*2}株式会社島津製作所

Discrimination between *Atractylodes Rhizome* (Byaku-jutsu) and *Atractylodes lancea* Rhizome (So-jutsu) by the PCR-RFLP Analysis of ITS Region on nrDNA (nrDNA, ITS 領域の PCR-RFLP 分析による生薬白朮と蒼朮の鑑別)

J. Jpn. Bot., 84, 356-359 (2009)

(療品部)

○ 大嶋智子^{*1}, 尾崎麻子^{*1}, 中島晴信^{*2}, 伊佐間和郎, 土屋利江^{*3}

^{*1}大阪市立環境科学研究所, ^{*2}大阪府立公衆衛生研究所, ^{*3}大阪大学医学部附属病院

ポリ乳酸プラスチック中の有機スズ化合物の分析

大阪市立環境科学研究所報告, 71, 21-26 (2009)

○ Nakagawa, K.^{*}, Nakamura, K.^{*}, Haishima, Y., Yamagami, M.^{*}, Sakagami, H.^{*}, Ogawa, H.^{*}

^{*}School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University

The utility of pseudoproteoglycan (pseudoPG) probes that simulate PG macromolecular structure for screening and isolation of proteoglycan-binding proteins. (プロテオグリカン (PG) 結合タンパク質のスクリーニングと分離に関する PG マクロ分子構造を模したシュード PG プロブの有用性)

Glycocon. J., 26, 1007-1017 (2009)

(有機化学部)

○ Ohno, A., Kawasaki, N., Fukuhara, K., Okuda, H., Yamaguchi, T.

Time-dependent changes of oxytocin using 1H-NMR coupled with multivariate analysis: A new approach for quality evaluation of protein/peptide biologic drugs. (多変量解析法と1H NMR法を組み合わせたオキシトシンの経時的な変化: 蛋白質/ペプチドの生物薬品の品質評価への新たなアプローチ)

(代謝生化学部)

- 酒井信夫, 安達玲子, 柴原裕亮^{*1}, 上坂良彦^{*1}, 清木興介^{*2}, 織田浩司^{*2}, 穂山浩, 手島玲子

^{*1}日水製薬株式会社診断薬研究部, ^{*2}株式会社マルハニチロホールディングス中央研究所

いわゆる健康食品に含まれるアレルゲンタンパク質の実態調査

日本食品化学学会誌, 16(3), 118-122 (2009)

- 穂山 浩, 佐々木伸大^{*1}, 大木果林, 中村文美, 坂田こずえ, 中村公亮, 大森清美^{*2}, 中島安基江^{*3}, 古井 聡^{*4}, 橋田和美^{*4}, 小関良宏^{*1}, 手島玲子

^{*1}東京農工大学, ^{*2}神奈川県衛生研究所, ^{*3}広島県立総合技術研究所, ^{*4}(独)農研機構 食品総合研究所

PCR法を用いた米加工品の安全性未審査遺伝子組換え米の検知法

日本食品化学学会誌, 16(3), 147-151 (2009)

(医薬安全科学部)

- Sugiyama, E., Lee, S. J. ^{*1}, Lee, S. S. ^{*1}, Kim, W. Y. ^{*1}, Kim, S. R., Tohkin, M., Hasegawa, R., Okuda, H., Kawamoto, M. ^{*2}, Kamatani, N. ^{*2}, Sawada, J., Kaniwa, N., Saito, Y., Shin, J. G. ^{*1}

^{*1}韓国・Inje, ^{*2}東京女子医大

Ethnic differences of two non-synonymous single nucleotide polymorphisms in CDA gene (シチジンデアミナーゼ遺伝子における2種のアミノ酸置換を伴う遺伝子多型のアレル頻度の人種差)

Drug Metab. Pharmacokinet., 24, 553-556 (2009)

シチジンデアミナーゼ (CDA) は、抗がん剤ゲムシタビン等の解毒代謝に関与する。今回、機能変化が報告されている2種のアミノ酸置換を伴う遺伝子多型に関し、5民族各150検体以上に関し、アレル頻度を解析した。その結果、208G>A (A70T) 多型は、東アジア人間でもアレル頻度に差がある可能性が考えられた。

- Fukushima-Uesaka, H., Saito, Y., Maekawa, K., Kurose, K., Sugiyama, E., Katori, N., Kaniwa, N., Hasegawa, R., Hamaguchi, T. ^{*1}, Eguchi-Nakajima, T. ^{*1}, Kato, K. ^{*1}, Yamada, Y. ^{*1}, Shimada, Y. ^{*1}, Yoshida, T. ^{*1}, Yamamoto, N. ^{*1}, Nokihara, H. ^{*1}, Kunitoh, H. ^{*1}, Ohe, Y. ^{*1}, Tamura, T. ^{*1}, Ura, T. ^{*2}, Saito, M. ^{*2}, Muro, K. ^{*2}, Doi, T. ^{*1}, Fuse, N. ^{*1}, Yoshino, T. ^{*1}, Ohtsu, A. ^{*1}, Saijo, N. ^{*1}, Matsumura, Y. ^{*1}, Okuda, H., Sawada, J.

^{*1}国立がんセンター, ^{*2}愛知県がんセンター

Genetic polymorphisms of copper- and platinum drug-efflux transporters ATP7A and ATP7B in Japanese cancer patients (銅および白金系抗がん剤の排泄に関与するトランスポーターATP7AおよびATP7B遺伝子の同定)

Drug Metab. Pharmacokinet., 24, 565-574 (2009)

ATP7AとATP7Bは、白金系抗がん剤の細胞外排泄に関与しているとされる。白金系抗がん剤の治療を受けた日本人癌患者203例に関し、シーケンシングによる遺伝子多型探索を行った。ATP7Aでは30種の新規を含む38種の多型を同定した。また、ATP7Bでは、28種の新規を含む61種の多型を検出した。

(病理部)

- Saegusa, Y. *, Fujimoto, H., Woo, G-H., Inoue, K., Takahashi, M., Mitsumori, K. *, Hirose, M., Nishikawa, A., Shibutani, M.

^{*}東京農工大学獣医学部

Developmental toxicity of brominated flame retardants, tetrabromobisphenol A and 1,2,5,6,9,10-hexabromocyclododecane, in rat offspring after maternal exposure from mid-gestation through lactation (臭素化難燃剤による妊娠中期から授乳期の母胎曝露後のラット児における発生毒性)

Reprod. Toxicol., 28(4), 456-467 (2009)

3. 誌上発表(総説・解説等)

(薬品部)

- 加藤くみ子
高機能性DDS製剤の品質特性評価研究
PHARMSTAGE, 9 (9), 1-2, 2009
- 四方田千佳子
溶出試験 医薬品製剤の品質保証ツール
ファルマシア, (45), 1201-1206(2009)

(生物薬品部)

- 山口照英
バイオ後続品の品質・安全性・有効性確保のための指針案について
医薬情報ジャピック・ジャーナル, 14, 69-93 (2009)
- 新見伸吾, 原島 瑞*, 日向昌司, 山口照英
*日本大学総合科学研究所
RNA interferenceを用いた医薬品開発の現状と展望
医薬品研究, 40(12), 789-809 (2009)

(食品衛生管理部)

- 五十君静信
遺伝子組換え乳酸菌を用いた経口粘膜ワクチン開発の試み
日本臨床腸内微生物学会誌, 11(1), 34-40 (2009)
- 野田 衛
電解水による衛生管理
食と健康, 53(12), 6-12 (2009)

(安全情報部)

- 窪田邦宏, 天沼 宏, 森川 馨
2008-2009年に米国およびカナダで発生したピーナッツバターおよびその含有製品による *Salmonella* Typhimurium アウトブレイク
食品衛生研究, 59(12), 7-15 (2009)

(医薬安全科学部)

- 鹿庭なほ子
イリノテカンの副作用を予測するためのUGT1A1多型検査
Vita, 27 (1), 50-55, (2010)
イリノテカンの用量制限的副作用である骨髄機能抑制等を引き起こす主たる原因のひとつは、イリノテカンの活性代謝物SN-38を解毒代謝する酵素の活性低下をもたらす遺伝子多型UGT1A1*6及び*28である。近年保険適用になったこれらの遺伝子マーカーを検出する検査薬、並びに、UGT1A1*6及び*28とイリノテカンのPK/PDとの関連について紹介した。

(変異遺伝部)

- Masumura, K.

Spontaneous and induced *gpt* and Spi⁻ mutant frequencies in *gpt* delta transgenic rodents (*gpt* deltaトランスジェニック動物における*gpt*およびSpi⁻の自然突然変異と誘発突然変異の頻度)

Genes and Environ., 31, 105-118 (2009)

レポーター遺伝子を導入したトランスジェニック動物は*in vivo*遺伝毒性試験系として有望である。*gpt* delta マウス・ラットは、点突然変異および欠失変異を選択的に検出し、塩基配列解析によって突然変異の特徴を分析できる。自然突然変異および誘発変異の特徴を解析し本試験系の有用性を明らかにした。

4. 単行本

(安全情報部)

- 畝山智香子

ほんとうの「食の安全」を考える—ゼロリスクという幻想

化学同人, 京都市 (2009), DOJIN選書 28巻

メタミドホス, マラカイトグリーン, トランス脂肪酸, メラミンなどの実際の事例も参照しながら, 残留農薬の基準値の設定の仕方やその値の意味, 発がん物質のリスク評価の方法を紹介。

(代謝生化学部)

- Akiyama, H., Sakai, S., Adachi, R., Teshima, R.

Molecular Biological and Immunological Techniques and Applications for Food Chemists (食品化学者のための分子生物学的, 免疫学的技術と応用)

John Wiley & Sons, Inc., UK (2009), pp. 293-309

日本のアレルギー表示に関する規制と特定原材料検査法, 及び我が国の特徴的なアレルギーであるソバの検知法について本書の一部を著述した。

5. 学会・講演等

(センター長)

- 井上 達, 金子豊蔵, 関田清司, 尹 秉一, 平林容子

Benzene-induced hematopoietic neoplasms developed in C3H/He and C57BL/6 mice: Differences observed using microarrays (C3H/HeとC57BL/6に発生するベンゼン誘発白血病: マイクロアレイを用いた解析)

第32回日本分子生物学会 (2009.12) (横浜)

- Inoue, T.

Biological Safety Testing in the 21st Century: Overview of the past and prospects for the future. (21世紀における安全性生物試験について: 過去の概括と将来へ向けての展望)

The 10th Annual Commemorative Drug Nonclinical Safety Academic Conference, National Center for Safety Evaluation of Drugs Foundation (NCSEDF), (2009.12) (Beijing)

(薬品部)

- 坂本知昭, 中山幸治^{*1}, 檜山行雄, 笹倉大督^{*2}

^{*1}東和薬品中央研, ^{*2}ブルカーオプティクス

遠赤外・テラヘルツ波及び近赤外波を用いた打錠プロセスの異なる錠剤の分光学的特性の解析

第26回製剤と粒子設計シンポジウム (2009. 11) (広島)

- 中山幸治^{*1}, 坂本知昭, 檜山行雄, 笹倉大督^{*2}

^{*1}東和薬品中央研, ^{*2}ブルカーオプティクス

固形製剤特性の非破壊分析法と破壊分析法の組み合わせによる解析

第26回製剤と粒子設計シンポジウム(2009.11) (広島)

- Sakamoto, T., Portieri, A. ^{*1}, Sasakura, D. ^{*2}, Matsubara, T. ^{*2}, Miura, T. ^{*2}, Taday, P. ^{*1}, Arnone, D. ^{*1}, Kawanishi T., Hiyama, Y.

^{*1}TeraView, ^{*2}Bruker Optics

Coating analysis of film- and enteric-coated tablets using terahertz pulsed imaging (テラヘルツパルスイメージングを用いたフィルム及び腸溶性コート錠のコーティング解析)

Eastern Analytical symposium (2009.11) (NJ, USA)

- 四方田千佳子

理化学試験法のこれから

第6回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム 局方を考える

(2009.12) (東京)

理化学試験法の残された課題とこれからの課題について概説した。

- 四方田千佳子

生物学的同等性試験に活用される溶出試験-ジェネリック医薬品品質情報検討会における動向を含めて-

第1回 品質・許認可委員会/国際委員会合同セミナー

(2009.12) (東京)

生物学的同等性試験における溶出試験の最近の国内外の動向とジェネリック医薬品品質情報検討会におけるうごきについて概説した。

(生物薬品部)

- 村田大輔^{*1}, 野村和子^{*1}, 水口惣平^{*1}, 出嶋克史^{*1}, 安藤恵子^{*2}, 三谷昌平^{*2}, 福島慶子^{*3}, 山下克子^{*3}, 中島 紫, 伊藤さつき, 川崎ナナ, 野村一也^{*1}

^{*1}九州大, ^{*2}東京女子医大, ^{*3}東京工業大

GPIアンカー生合成遺伝子機能阻害による線虫C. elegans 生殖系列の表現型解析

第32回日本分子生物学会年会 (2009.12) (横浜)

- 伊達公恵*, 川崎ナナ, 橋井則貴, 伊藤さつき, 楽 娜*, 小川温子*

*お茶の水女子大

ブタ膵臓α-アミラーゼに対する十二指腸糖タンパク質レセプターの同定とその糖鎖認識による機能調節

第32回日本分子生物学会年会 (2009.12) (横浜)

- Takakura, D., Kawasaki, N., Qin, Y., Huang, X., Itoh, S., Hashii, N., Yamaguchi, T.

Role of nuclear sialyl lewis x-conjugated glycoproteins in the proliferation of cancer cell lines. (癌細胞株の増殖におけるシアリルルイスX付加核内糖タンパク質の役割)

第32回日本分子生物学会年会 (2009.12) (横浜)

- 小川裕子^{*1}, 金井正美^{*2}, 三浦ゆり^{*3}, 原園 景, 秋元義弘^{*2}, 川上速人^{*2}, 戸田年総^{*3}, 遠藤玉夫^{*3}, 山口照英, 津吹政可^{*1}, 矢ノ下良平^{*1}

^{*1}星薬科大学, ^{*2}杏林大学, ^{*3}都健康長寿医療センター研

第54回ヒト唾液中に存在する2種類のエキソソームの性状解析

日本唾液腺学会 (2009.12) (東京)

- 眞田由親*, 新村卓也*, 井関 寛*, 内田恵理子, 山口照英, 小木美恵子*

*金沢工業大学

HL60細胞におけるDimethyl Sulfoxideによる分化誘導とc-mycの変化について

日本分子生物学会第32回年会 (2009. 12) (横浜)

- 山口照英

バイオ後続品の品質・安全性・有効性確保について

第7回日本糖質科学コンソーシアムシンポジウム (2009. 12) (大阪)

- 川崎ナナ

糖タンパク質性医薬品の開発と質量分析

第7回日本糖質科学コンソーシアムシンポジウム (2009. 12) (大阪)

- 山口照英

局方・生物薬品各条のこれから

第6回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム (2009. 12) (東京)

(生薬部)

- 末永恵美, 袴塚高志, 飯田 修^{*1}, 藤野廣春^{*2}, 黒崎文也^{*2}, 矢原正治^{*3}, 合田幸広

^{*1}基盤研・薬植セ・種子島, ^{*2}富山大・薬・薬用植物園, ^{*3}熊本大院・薬・薬用植物園

Phylogenetic study of *Vitex trifolia* L. using the nuclear ribosomal DNA ITS and the nuclear *FLORICAULA/LEAFY* second intron (rDNA-ITSと *FLORICAULA/LEAFY* second intronを用いたミツバハマゴウの系統解析)

第32回日本分子生物学会年会 (2009. 12) (横浜)

- 合田幸広

生薬分野における日本薬局方の最近の話題と漢方製剤・生薬製剤・生薬用語の英語表記について

第38回生薬分析シンポジウム (2009. 12) (大阪)

- 合田幸広

日本薬局方の改正について

大阪家庭薬協会講演会 (2009. 12) (大阪)

- 合田幸広

生薬各条並びに生薬・生薬製剤 関連記載のこれから

第6回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム (2009. 12) (東京)

- 丸山卓郎

遺伝子情報を利用した生薬の純度試験の改定

第38回生薬分析シンポジウム (2009. 12) (大阪)

(療品部)

- 藪島由二, 伊佐間和郎, 長谷川千恵, 松岡厚子

スルホン化材料が持つ骨芽細胞分化促進機能と材料吸着蛋白質の相関性

第31回日本バイオマテリアル学会大会 (2009. 11) (京都)

(環境衛生化学部)

- 吉田貴光^{*1}, 羽佐田桂子^{*1}, 水上 元^{*1}, 永津明人^{*2}, 山崎 壮, 杉本直樹, 西村哲治

^{*1}名古屋市立大学薬学部, ^{*2}金城学院大学薬学部

qNMRによるオウレン中のベルベリンアルカロイド類の定量

第38回生薬分析シンポジウム (2009. 12) (大阪)

- 神野透人, 古川容子, 大田悠紀子, 香川 (田中) 聡子, 西村哲治

フタル酸モノエステル類による室内汚染－ハウスダストを介する暴露について

平成21年度室内環境学会研究発表会 (2009.12) (東大阪)

- 古川容子, 香川 (田中) 聡子, 大田悠紀子, 神野透人, 西村哲治
DART-TOFMSによる繊維製品中の難燃剤のスクリーニング
平成21年度室内環境学会研究発表会 (2009.12) (東大阪)
- 香川 (田中) 聡子, 古川容子, 大田悠紀子, 神野透人, 西村哲治
ハウスダスト及び室内空気中のフタル酸エステル類の実態調査
平成21年度室内環境学会研究発表会 (2009.12) (東大阪)

(食品部)

- 渡辺章夫^{*1}, 増水章季^{*2}, 原 英之^{*3}, 廣庭隆行^{*4}, 岡野和史^{*5}, 早坂 崇^{*6}, 田向健二^{*7}, 宮原 誠

^{*1}日本食品分析センター, ^{*2}崇城大学, ^{*3}ブルカー・バイオスピン, ^{*4}コーガアイソトープ, ^{*5}日本電子, ^{*6}日本電子照射サービス, ^{*7}キーコム
放射線照射食品 (骨付き肉及び貝, 糖, セルロース) におけるESR法の検知技術の検証
日本食品照射研究協議会 第45回大会 (2009.12) (東京)
- 根本 了
食品中の残留農薬等試験法について
地方衛生研究所北海道・東北・新潟ブロック理化学部門専門家会議
(2009.12) (福島)

(食品添加物部)

- Ito, Y., Yamazaki, T., Kawamura, Y.
The chemical structure of a yellow pigment from the dried outer scales of theyellow onion Allium cepa (黄色タマネギ外皮由来の黄色色素の化学構造について)
4th International Conference on Polyphenols and Health (2009,12)
(Harrogate)

(衛生微生物部)

- Hamada, M. *, Shimizu, M. *, Sugita-Konishi Y.
^{*}The University of Tokyo
The absorption, metabolism and disposition of tangeretin in the human intestinal epithelial cells. (ひと腸管細胞におけるタンゲラチンに関する研究)
4th International Conference on Polyphenols and Health (2009.12)
(Yorkshire)

(有機化学部)

- 石川奈保子^{*1}, 田中正一^{*2}, 栗原正明, 末宗 洋^{*1}
^{*1}九大院・薬, ^{*2}長大院・医歯薬
キラルアセタールを有する六員環状アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造解析
第26回日本薬学会九州支部大会 (2009.12) (福岡)
- 奥田晴宏
化学薬品各条のこれから
第6回 医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラムシンポジウム (2009.12) (東京)
- Imai, K. ^{*1,2}, Nakamura, A. ^{*2}, Okuda, H., Fukuhara, K.
^{*1}National Institute of Health Sciences (NIHS), ^{*2}Shibaura Institute of Technology

Synthesis of nitroacridine-N-oxide analogue for the purpose of photodynamic therapy (光線力学療法をを目的とするニトロアクリジン-N-オキシドの合成)

The 5th Joint Meeting of The Societies For Free Radical Research Australasia and Japan (2009. 12) (Sydney)

(代謝生化学部)

- 渡邊佳代子*, 中村里香, 中村亮介, 手島玲子, 三島 敏*
*アピ (株) 長良川リサーチセンター
プロポリスの抗アレルギー作用と関与成分
ぎふEBBF (健康有用天然素材) フォーラム2009 (2009. 12) (岐阜)
- 中村里香, 中村亮介, 渡邊佳代子*, 三島 敏*, 手島玲子
*アピ (株) 長良川リサーチセンター
プロポリスの抗アレルギー作用
岐阜大学 第2回「先端創薬医療シンポジウム」 (2009. 12) (岐阜)
- 小櫃冨未, 近藤一成, 手島玲子
PARP-1とCaspaseの活性化を伴わない, AIFの核移行を介した神経細胞死
第32回日本分子生物学会年会 (2009. 12) (横浜)

(医薬安全化学部)

- 頭金正博, 鹿庭なほ子, 黒瀬光一, 斎藤嘉朗, 長谷川隆一, 高橋幸利*¹, 古谷博和*², 松永佳世子*³, 村松正明*⁴, 木下 茂*⁵, 相原道子*⁶, 池澤善郎*⁶
*¹国立静岡てんかん・神経医療センター, *²国立大牟田病院, *³藤田保健衛生大, *⁴東京医科歯科大, *⁵京都府立医大, *⁶横浜市大
スティーブンス・ジョンソン症候群/中毒性表皮壊死症の発症と関連するバイオマーカーの探索研究
日本臨床薬理学会第30回年会 (2009. 12) (横浜)
- 黒瀬光一, 佐伯真弓, 小泉朋子, 頭金正博, 長谷川隆一
MDR1遺伝子の発現誘導に関わる5' 上流領域の解析
第32回日本分子生物学会年会 (2009. 12) (横浜)
- 頭金正博
Study Group on Ethnic Factors in Clinical Data from East Asian Populations. (東アジア民族の臨床データにおける民族的要因に関する研究班)
Japan-Korean-China Drug Clinical Trial Symposium (和文: 日中韓の臨床試験シンポジウム)
(2009. 12) (北京)
東アジアでの国際共同治験を推進するため, 東アジア民族における薬物動態の比較した結果を紹介した.

(安全情報部)

- 畝山智香子
ゼロリスクとその実態
(社)日本食品衛生学会 公開講演会
日本教育会館 (2009. 11) (東京)

(毒性部)

- 平林容子, 李 光勲, 尹 秉一, 藤井義明*, 菅野 純, 井上 達
*筑波大学
Phylogenic biological function of aryl hydrocarbon receptor (アリールハイドロカーボン受容体の系統発生的生物機能)
第32回日本分子生物学会 (2009. 12) (横浜)

- 菅野 純
食品の安全性評価について—食経験と動物試験。ゼロリスクとVSD—
食品の安全性評価はどうあるべきか
(2009.12) (東京)
- 菅野 純
分子メカニズムとヒト影響を結ぶツールとしてのパーセローム系の開発
第3回In vivo 実験医学シンポジウム
(2009.12) (東京)

(薬理部)

- 中村昌文*, 半田洋士*, 小野 敦, 小島 肇
*株式会社 日吉
LUMI-cell ER アッセイ法の国際的バリデーション (第二報)
第12回環境ホルモン学会研究発表会 (2009.12) (東京)
- 小島 肇, 飯島正文*¹, 松永佳世子*², 佐々 斉*³, 板垣 宏*³, 岡本裕子*⁴, 西山直宏*⁵, 小野寺博志*⁶, 見田 活*⁶, 鷺田 淳*⁷, 益山光一*⁷, 増田光輝, 大野泰雄
*¹昭和大学, *²藤田保健衛生大学, *³株式会社 資生堂, *⁴コーセイ株式会社, *⁵花王株式会社, *⁶(独) 医薬品医療機器総合機構, *⁷厚生労働省
医薬部外品の承認申請における安全性に関わる資料のあり方検討委員会報告
医薬部外品の承認申請における安全性に関わる資料のあり方検討会報告
(2009.12) (東京)

(病理部)

- 吉田 緑
通常の反復投与の動物試験による化学物質の雌性生殖器への影響評価
第3回 In vivo実験医学シンポジウム
(2009.12) (東京)

(変異遺伝部)

- 新見直子, 飯泉 晋*, 足立典隆*, 小山秀機*, 能美健彦
*横浜市大・院
ヒト細胞におけるDNAポリメラーゼ κ の機能解析
第32回日本分子生物学会年会 (2009.12)(横浜)

(総合評価研究室)

- 広瀬明彦
化学物質の安全性評価
第30回日本臨床薬理学会年会シンポジウム
(2009.12) (横浜)

6. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(安全情報部)

- 森田 健
Sub-Committee of Experts on the GHS, 18th session (第18回国連GHS小委員会および関連会議)
ジュネーブ (スイス), 2009年12月8日~11日
国連によるGHS (化学品の分類と表示に関する世界調和システム) に関する小委員会に参加し, 適切な化学物質管理に向けた討論ならびに情報収集を行った。